

感動新聞 平成22年7月号 発行者 細川栄一

皆様、お元気ですか？ 笑顔、元気、素直、そして明るい挨拶が一番です。これからもよろしく願い申し上げます。ビジネス経営の最前線で頑張っておられる方の役に立つ情報となればと思います。喜んで頂ければ幸いです。

樋口廣太郎さんの話

「個性・情報・夢を大切に」

未来をひらく

アサヒビール名誉会長の樋口廣太郎さんの日経新聞にでていた話です。明るい未来をひらくために、私達一人一人が努力しなければならない。それには、三つの重要な事がある。

まず「オリジナリティー」である。

これからは個性、独創性が不可欠であり、それは自分で考えることから生まれる。ノーベル賞を受賞された福井謙一先生と新幹線でご一緒した時のこと。首に空気まくらを付けてシートにもたれて本を読んでいる私を、先生がじっと見ているのに気付いた。お尋ねすると、「樋口さんの首に付けているものは何だろうと考えていた」とおっしゃる。「聞いてくださればよろしいのに」と申上げると、「自分の頭であれこれ考えるのがいいんです」と言われた。何事も前例にとらわれず自分の頭で考え、個性を発揮する時代である。

もう一つ、「情報」の扱い方がカギになる。

情報という字はだれが考えたか知らないが、「情けに報いる」と書く。確かな情報を得るためには、心のつながったよい友達をたくさん持つことが肝心である。お互いに鮮度の高い情報を交換できるネットワーク作りが大切だ。

最後に「夢」が必要だ。

夢や希望がなければ、意欲がわかない。夢が国民のエネルギーになり、国の発展の原動力になると思う。企業でも同じで、アサヒの社員は猛烈に明るく、あの苦しい時期にも希望を失っていなかったのも、皆も私も救われた。

かねがね私は、声が大きくて、ニコニコと明るく元気で、チョッピリ知性があれば、大概のことはいくと言ってきた。これからも言い続けると思う。

そして

済んだ事はくよくよしない。

名優チャップリンは、晩年に「あなたの傑作は？」と聞かれ、「次ぎの作品です。」と答えたという。すさまじいまでの気力が伝わってくる。

これからも

「すんだことはくよくよしない、未来は神にまかせる」

というゲーテの言葉を胸に前向きに生きていきたいと願っている。

上記の感動新聞の内容は、平成13年(2001年)3月号の記事原稿です。10年前なのですが、現在でも全く通用する内容ですね。改めて読み直して考えさせられました。「未来は神にまかせる」...まさに「念」じる、そして祈る！